

福岡市が「スタートアップ
都市ふくおか」を宣言した
のは2012年。以来、国内
外の起業家やベンチャーの誘
致・育成、成長支援が活発に
行われています。2020年

Special Conversation

【新春特別鼎談】
CIC×FGN×FFG



CIC Fukuoka
ゼネラルマネージャー
しみず くに ひこ
清水 邦彦 氏



Fukuoka Growth Next
事務局長
いけ だ たかのぶ
池田 貴信 氏



福岡銀行
ソリューション営業部
もり なが りょう
森永 良 部長

には内閣府が進める「世界に伍するスタートアップ・エコシステムの拠点形成戦略」において「グローバル拠点都市」に福岡市が選定され、九州各地でもピッチイベントが開催されるなど、その機運は一層高まりを見せています。

今回、官民共働型スタートアップ支援施設「Fukuoka Growth Next (FGN)」の事務局長・池田貴信氏、イノベーション拠点「CIC Fukuoka」のゼネラルマネージャー・清水邦彦氏、そしてFFG福岡銀行ソリューション営業部・森永良部長に、FFGのイノベーション創出施設「GROWTH I」を舞台に、福岡におけるスタートアップ支援の現状と今後の展望についてお話を伺いました。



GROWTH Iサロン(左からFGN・池田事務局長、CIC・清水ゼネラルマネージャー、福岡銀行・森永部長)



CIC Fukuoka 清水ゼネラルマネージャー

スタートアップ支援で

『アジアの玄関口』を目指し

イノベティブな都市、福岡へ

― 起業・創業支援に対する、それぞれの目的・役割についてお聞かせください。

福岡銀行 森永良部長（以下、森永部長）

FFGでは、2017年より子会社のFFGベンチャービジネスパートナーズを中心にスタートアップへの資金支援・成長支援を行っています。本日お二人にお越しいただいた、ここGROWTH Iは、スタートアップと

地域企業が交わる場として2023年にオープンしました。開設から2年で開催イベントは400件を超え、地域や業種を越えて人が集まる場として定着しつつあります。今後はCIC、FGNと連携しながら、福岡・九州全体で次のステージを見据えた支援の形をつくっていきたいと考えています。

CIC 清水邦彦ゼネラルマネージャー（以下、清水GM）

ケンブリッジイノベーションセンター

（Cambridge Innovation Center）はアメリカでスタートし、スタートアップ支援に特化したコミュニティ型シェアオフィスを運営しています。起業家、大企業、VC（ベンチャーキャピタル）・CVC（コーポレートベンチャーキャピタル）・投資家、行政機関、そして大学という5つのプレーヤーを集めて有機的な交流を生み、スタートアップが成長する生態系、いわゆるスタートアップエコシステムの形成を目的としています。CIC Fukuokaはオープンから半年間で約90社の入居があり、現在も多くの申し込みが続いています。CICのアジア2拠点目

となる福岡で、地域コミュニティの熱と濃度を高くする取り組みを進め、東京―福岡間の好循環と、福岡発のグローバル展開を期待しています。

FGN 池田貴信事務局長（以下、池田事務局長）

FGNは、福岡市と福岡地所株式会社、さくらインターネット株式会社、GMOペパボ株式会社、フォースタートアップ株式会社との5者による官民共働事業として、福岡市とともに、スタートアップエコシステムの土台づくりや、起業家の育成、サポートを担っています。FGNが支援したスタートアップのうち、資金調達に成功した企業はのべ110社、その累計調達額は約490億円に達しました（2024年12月末時点）。またスタートアップエコシステムを成長させるためには、新しいチャレンジをする人や企業を発掘し、成長の場を提供するための「裾野の拡大」もあわせて進めていく必要があります。そのうえでFGN内にある「スタートアップカフェ」では創業を志す方をサポートし、その役割を果たしています。

CIC Fukuoka



『起業家のために作られた“イノベーションの発進基地”』

■オープン：2025年4月

■所在地：福岡市中央区天神1-11-1 ONE FUKUOKA BLDG.7階

■施設概要：米国マサチューセッツ州ケンブリッジ市発のイノベーション拠点CIC(Cambridge Innovation Center)による、東京に次ぐアジア第2拠点目のイノベーションハブ。スタートアップの成長を支援。





Fukuoka Growth Next 池田事務局長

「スタートアップエコシステムの構築・活性化に向けた取り組みについてお聞かせください。」

池田事務局長 3年前まではFGNが中心となって広範囲なスタートアップ支援を提供してきました。しかし現在ではGROWTH Iや、CIC Fukuokaが誕生したことで支援のプレーヤーが増え、スタートアップエコシステムが大きく広がってきたと感じます。

清水GM CICのベンチャーカフェでは、人と人を繋ぐ「Thursday Gathering」

というイベントを毎週木曜日に開催しています。参加は無料で、どんなでも大歓迎、ドリンク片手に活発な交流が楽しめるネットワーキングも好評です。他にも、およそ40組の起業家が3分間のピッチ形式で次々にビジネスアイデアを披露し、資金調達や支援者の獲得を目指すフラッグシップイベントを2025年12月11日に開催しました。何かやりたいと思ったら、最初は難しく考えずに、こういったスタートアップを醸成する場の空気に触れてみるだけでもよいと思っています。そういう意味でも「ここに来れば何かできる」と感じてもらえる場所づくりと周知が必要ですね。

池田事務局長 おっしゃるとおり、一人で悩んでも何も進みません。「こんなアイデアだけど誰に相談したらいいの?」と悩んでいる人こそ、イベントやミートアップに参加して恥ずかしがらずに人と話してほしいです。起業家の悩みを解決するには、経験者から直接、成功例や失敗例を聞くことが非常に有益で、そこから自分なりの道が見えてくるものだと思います。

森永部長 近年は事業承継問題も増え、銀行として地域企業の新しい挑戦や人材マッチングの相談を受ける機会も多くなっています。これからはCICやFGNとさらに連携し、スタートアップやそこで生まれる新しいビジネスを地域企業につなげていく動きを加速させたいと考えています。将来を見据えて新規事業を模索する企業も増えており、そうした企業が安心して挑戦できる土台が福岡に整いつつあるのは心強いことです。

また、九州ではTSMCの熊本進出を契機に半導体ビジネスが盛り上がりを見せていますが、半導体エコシステムを構築する上で、ICデザイン企業(半導体設計企業)の誘致・育成が一つの課題となっています。CICとは設計領域の海外スタートアップ誘致で連携できればと思います。

Fukuoka Growth Next

『起業家と支援者が集まるスタートアップ支援施設』

- オープン: 2017年4月
- 所在地: 福岡市中央区大名2-6-11
- 施設概要: 福岡を代表するスタートアップ創出を目指す、官民共働型のスタートアップ支援施設。起業・創業支援から成長支援までを統合的に提供し、スタートアップエコシステムの中心的な役割を担う。





福岡銀行 森永部長

よいですか」と聞いていただければ、次のステップをご案内させていただきます。FGNのスタートアップカフェでは無料で専門家に相談できますし、FGNにある福岡市雇用労働相談センター(FECC)には弁護士や社労士も常駐しています。エコシステム内で横でも連携しているので、どこに相談すればいいのかの相談にものりますよ。

といった表現によってハードルが高く感じられている部分もあります。起業の形はさまざまです。起業したいということであればスモールビジネスでもまったく問題ありません。ラーメン屋でもネイルサロンでもNPOだっていいんです。「チャレンジしたい」という気持ちが湧いたら、FGNを覗いてみる、CICのThursday Gatheringに行ってみるなど、私たちを活用していただきたいと思っています。そのためにイベントを開催しています。人と繋がって情報を得て、もう一歩進みたくなったら私たちに「次はどうすれば

清水GM CICも、どんなアイデアでも受け止めます。先ほどお話しした5つのプレーヤーを揃え、効率的かつクオリティーの高い「ヒト・モノ・資金・情報」を集積して行く予定です。それらが集まれば、情報リソースを生かしながらの急成長が見込めます。そして、VC・CVCとの距離を縮める機会も増やしたいですね。福岡の地域特性は、行政と企業が同時並行的にスタートアップエコシステムを構築しようとしている点です。森永さん、福岡の企業のスタートアップへの興味は高いのでしょうか？

森永部長 スタートアップが持つ

独自の技術やサービスを地域企業にご紹介すると、「ぜひ会ってみよう」「一緒にできることがありそうだ」と前向きな反応をいただくことが多く、具体的な商談や成約へと展開する例が確実に増えてきました。この芽吹き始めた共創の動きこそが、地域全体の新しい産業を生み出す原動力になると感じています。GROWTH Iでは、こうした動きをさらに加速させるため、地域企業とスタートアップが継続的に交流し、実証や事業連携へとつながる共創の仕組みづくりを強化していきたいと考えています。単なる資金支援やマッチングにとどまらず、課題の深掘りから解決まで伴走し、地域から新しい産業を生み出す実践的なプラットフォームへ進化させていくことを目指しています。

清水GM スタートアップと企業が共働・発展してオープンイノベーションが広がるだけではなく、企業文化を刺激してクロースドイノベーションが生まれ外から事業を持つてくるというケースも生まれますね。

森永部長 おっしゃるとおりです。GROWTH Iでは、新たに「●●社を囲む会」という、特定の1社を複数の企業・スタートアップが囲んでディスカッションする交流会を始めました。地域企業の新規事業開発とスタートアップ支援の両方に繋がたいと開催していますが、参加者には大変好評をいただいております、成果も出ています。

池田事務局長 最近ではM&Aに対する捉え方がポジティブになったこともあって、ゴールもIPOにこだわらなくなってきましたね。今は、高みを目指す、いわゆる「高さ」を出すスタートアップの誕生が求められています。しかし、M&Aも有効な手段だと思っており、それぞれの起業家にあったゴールの選択肢が増えることは非常によいと思っています。

スタートアップを目指す人へのメッセージと今後の抱負を。

池田事務局長 福岡市ほど、行政の支援を強力に打ち出している地域は

ありません。市のシステムを活用すれば、多くのメリットを受けられます。また、福岡は「アジアの玄関口」としてのポテンシャルが高い地域なので、一度は海外を目指してほしいという気持ちがあります。そのためには支援側も、海外に向けてチャレンジしやすい構造へと進化する必要があります。私たちもさらに改革を進めていかなければ、と感じています。私たちも、起業家の皆さんと一緒にチャレンジしたいと思っています。

清水GM 成功を目指して福岡から東京へ進出する流れは多いですが、海外へ飛び出す層がもつと増えて欲しいですね。Thursday Gatheringのキーワードメッセージ「Failure is good（失敗は良いこと）」にあるように、チャレンジは何度してもよいのです。失敗を恐れず、経験から多くを学び、多種多様なスタートアップと出会い、企業文化の刺激を得て内的動機を強くする。それが成長に繋がります。オープンイノベーションの中には、M&Aや業務提携、CVCFファンド、

直接投資、アクセラレーションプログラムといった多岐にわたるメニューがあります。企業の皆さんにも、どのようなメリットを得られるのかを知っていただきたいですね。木曜日にはぜひ、Thursday Gatheringへ足を運んでください。

森永部長 これからは、成功事例を積み重ねて波及効果を生み出すことが重要です。FFGでは、スタートアップ設立から成長に至るステージ毎に資金支援メ

ニユーを準備しています。また、CXO人財紹介（企業の各部門における最高責任者紹介）やメンタリングサポート等の多角的な支援を行うとともに、地域企業とスタートアップが共に成長できる仕組みを整えています。今後モスタートアップ、地域企業、行政、大学、

投資家がつながる九州発のオープンイノベーションのエコシステムを築き、起業・創業だけでなく、既存企業の新事業づくりや事業承継も含めた「挑戦しやすい環境づくり」を進めていきますので、ぜひGROWTH Iにも気軽にお越しください。本日お二人のお話を聞いて、私たちが共働する意義を強く感じました。ぜひ、共に新しいイノベーションを目指しましょう。本日はありがとうございました。



GROWTH I イベントスペースにて記念撮影

GROWTH I



『スタートアップと地域企業が交わる場所』

■オープン：2023年8月

■所在地：福岡市中央区大名2-6-53
福岡大名ガーデンシティ テラス 2階・3階

■施設概要：FFGが運営するスタートアップの成長支援・地域企業のイノベーション創出施設。

